

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	80.9	91.4	<p>今回の【1】は北海道地方と九州地方の比較地誌を出題した。二つの地域の気候や自然地形、都市構造や産業の対比が中心であったが、単純な語句の暗記だけでは対応が難しい、社会の諸事象の本質を理解できているかどうかを問いの主軸とした。統計資料を正しく読み取る練習や白地図作業が普段からできていた生徒は、持てる知識や情報を駆使しつつ問題に臨むために違いないが、そうでなかった生徒は困惑し、大幅に時間を費やしてしまったことだろう。試験問題は、必ずしも順番に解かなくてはならないものではない。一旦全体に目を通して、自分なりの時間配分を構築できるように心掛けよう。</p> <p>問1・2は、道庁の札幌市とカルデラ火山である有珠山の場所を、地図で押さえているかを問う問題である。特に問2については問4と関連付けて学習しておきたい。問3では、問題文で既に明示されている「福岡市」や「鹿児島市」、そして「宮崎市」と答える受験生が見られた。福岡市に次いで人口が多いのは「熊本市」、一番人口の少ない九州の県庁所在地は「佐賀市」である。人口規模の大きな福岡県に隣接する佐賀県では、人口の流出が問題となっていることを押さえておこう。問4で問われている「池田湖」はカルデラ湖の一種だが、これを知っている受験生は少ないであろう。しかし、サロマ湖・浜名湖・宍道湖は海岸線付近にみられることから、形成過程も同種であり、摩周湖とは異なるのではと推測したい。問5では「土石流」と答える受験生が多かった。土石流は多量の土砂が大雨などによって流れおとる現象である。正答である「火砕流」とは成分が根本的に違うため注意したい。問6は、シラスや泥炭など、単なる名称だけでなく、なぜそのような土壌が展開しているのか考えが及んでいない必要がある。土壌と農業は関連付けやすいため、問8のヒントにもなるだろう。問7の雨温図は、北海道の冬季の気温を考慮した上で、冬の降雪量が多い日本海側に近いのが、札幌市と釧路市のどちらであるか判断する必要がある。問8の農作物については、「米」・「野菜」の産出額に注目して都市を判別したい。特に、泥炭が分布しているため、農作物の産出額が全体的に低い釧路市は分かりやすかったであろう。問9は苦戦した受験生が多かったに違いない。これはグラフから「読みとれる内容」として正しい選択肢を選ぶ問題であり、グラフの数値から推測できる内容が含まれていた場合は誤答となることに注意したい。加えて、各グラフの縦軸の目盛りが異なっていることにも気が付かなくてはならない。グラフを見た目だけで判断するのではなく、しっかりと数値を読み取り、情報を整理して選択肢の選別にも臨もう。問10は、約50年間における地域の工業出荷額の変化について問うものであった。1次産業や軽工業の占める割合が近年減少していることを前提としたうえで、先端技術産業の成長がみられる九州地方と、食品関連産業が強い北海道地方の比較ができるというだろう。</p>	
	問2	38.7	51.9		
	問3 (1)	番号	56.3		67.9
		都市名	48.7		63.0
	問3 (4)	番号	38.2		48.1
		都市名	35.2		42.0
	問4	58.3	66.7		
	問5	51.8	60.5		
	問6	18.1	19.8		
	問7	67.3	71.6		
問8	40.2	44.4			
問9	10.6	13.6			
問10	13.1	17.3			
【2】	問1	73.4	80.2	<p>日本の古代から近代までの歴史を全般的に扱った。基本的な知識を問う出題が多かったため、全体的に正答率は高いが、その中でも正答率が下がった問題は、問7・問9・問10である。問7は、「富嶽三十六景」の作者名を答える問題であったが、同じく浮世絵師である「歌川広重」などの誤答が多かった。文化史の勉強はただ単語を覚えるだけではなく、教科書に掲載されている写真や資料などにも目を配るよう常に心がけてほしい。問9は大隈重信が正解だったが、「隈」の漢字間違いや「原敏」などの誤答が多く見られた。問10は、日本の産業革命が軽工業から始まり、次第に重工業や化学工業が発達していくという流れを把握しているかを確認する問題だった。[Y]に関しては、「ヨーロッパの戦争の影響で日本経済が好景気」であったという記述から大戦景気の話だと気づくことができれば、より確実に正解を導けただろう。普段の学習から、歴史の大まかな流れを把握するよう心がけることが重要である。</p>	
	問2	83.9	90.1		
	問3	75.4	85.2		
	問4	83.9	87.7		
	問5	95.5	98.8		
	問6	87.4	93.8		
	問7	70.4	76.5		
	問8	89.9	100.0		
	問9	62.3	66.7		
	問10	70.9	80.2		
【3】	問1	(1)	89.4	95.1	<p>環境問題・公害を題材とした出題であった。グレタ＝トゥーンベリ氏の発言から、環境問題が大きな話題となった。その出来事から、なぜ環境問題や公害が発生したのか、世界はどのような取り組みを行っているのか、ということを知ることができる問題文となっている。</p> <p>問1 (2) に関しては、朝鮮戦争や湾岸戦争、イラク戦争などの間違いが多かった。ベトナム戦争は日本が大きく関わったわけではないため、あまりなじみがなかったのかもしれない。問2の地球温暖化によって起こる影響を貝塚分布から考える記述問題は多くの受験生が手を焼いたようで、「海面の上昇」のみを書いている解答が多く、「関東地方に起こると考えられること」にまで言及しているものが少なかった。問3はグラフと年表の読み取り問題であったが、(ア)の誤答が多かった。グラフからは綿糸の輸出が1890年から始まっていることがわかり、年表からは会社設立ブームが1886年から始まっていることがわかるので、(ア)は正しい選択肢である。問5に関しては、二つのグラフを読み取って日本の林業が衰退した理由を考える記述問題であり、全体的によくできていた。問6に関しては、日常生活の中でのできごとを、あなたならどうやって解決するかを考える問題である。今回の問題を解いて、ぜひ実践してほしい。問7は、本文から理由を抜き出すという問題であったため、本文を読み飛ばして解答してしまうと、最後に時間が足りなくなってしまう。受験者正答率と合格者正答率で大きな差がついていた。</p>
		(2)	49.2	53.1	
	問2	記述	32.5	36.2	
	問3	60.8	63.0		
	問4	[X]	92.0	98.8	
		[Y]	91.0	97.5	
	問5	記述	51.0	59.3	
問6	記述	41.5	42.8		
問7	37.7	53.1			

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	(1)	12.2	13.1	群馬県の「上毛かるた」を題材として、各都道府県の都市、自然、産業、観光、交通などの特徴を総合的に問う地理の問題であった。 問1(2)は群馬県の県庁所在地を漢字で答える問題であったが、前橋の「橋」の字を間違えている解答が多くみられた。地理用語に関わらず、社会の用語はしっかりと漢字で書けるように反復練習を心がけてほしい。問2は「浅間山」が長野県と接していることを理解していることが前提となる問題、問4は温泉地が位置する都道府県を確認する問題で、日頃からの地図学習の重要性を認識させられる出題であった。学習した場所を、必ず地図上で確認する習慣を付けてほしい。問7は内村鑑三に関する歴史分野の知識と、ロシアの地図上での位置を確認する地理分野の双方の知識が求められた出題であった。問8は北陸新幹線の輸送量を答える問題で、北陸新幹線の開通を想起し、(イ)の選択肢が2010年から2015年にかけて、他の選択肢に比べて増加率が高いことに気づくことができたかがポイントであった。統計問題は用語の暗記だけでは対応できないことも多いため、数値の大小、増加率、減少率に注目することが重要である。問9は中山道が通過していた現在の都道府県を理解していることを前提として、各選択肢の文章中のキーワードからどの都道府県を示しているかを読み取る出題であった。 地理の学習では地図帳を活用することはもちろん、一つの地理的事象や地理用語を複数の視点、つまり多面的な視点で捉え理解することが重要である。一問一答形式で知識を蓄えて正確に書けるようになった後は、地理的事象を結び付けて体系的に学習していくことを心がけよう。
		(2)	67.0	76.4	
	問2	55.1	62.3		
	問3	73.2	79.6		
	問4	47.0	52.9		
	問5	71.7	76.4		
	問6	74.4	77.5		
	問7	70.5	78.0		
	問8	47.0	55.5		
	問9	73.2	83.8		
問10	83.0	88.5			
【2】	問1	(1)	80.4	88.5	「妖怪」をテーマに出題した。問題文でも述べたように、妖怪は漫画やアニメ、ゲームなどでおなじみの存在だと思うが、このようにふだんの遊びの中で触れるものについて、学習した内容と関連させるくせをつけておくと、学習をより楽しむことができるようになることだろう。 問1は漢字の間違いが多くみられた。また(2)(3)は漢字指定だったが、ひらがなでの解答がしばしばみられた。問題文をきちんと読む習慣を身につけておきたい。 最も正答率が低かったのは、問5の平家物語が成立した頃(鎌倉時代)の社会のようすを問う問題であった。このような社会経済史に関する出題は受験生の苦手とする所であるので、ノートにまとめるなどで自分で一度整理しておくことをおすすめしたい。 合格者正答率と受験生正答率の差が激しかったのは、問7と問8であった。問7は年表中から、『日本書紀』の成立した時期を指摘する問題であったが、細かい年号を暗記しておかなくとも、「奈良時代初期」ということがわかっているならば正答可能であった。このように、重要な出来事について「だいたいいつ頃(何時代の、前期か？ 中期か？ 後期か?)」という感覚を持つておくことは、年号を暗記すること以上に重要である。 問8はおなじみの聖徳太子についての出題だったが、誤りの選択肢の中の「十七条の憲法」「冠位十二階」「小野妹子」といったキーワードは全て正しく、その内容の説明が誤っていた。単に語句と語句とを一对一対応させる形での暗記では正答を選ぶのは難しかった。語句を暗記する際には、その語句の意味について自分で説明できるか、を常に検証するくせをつけるとよいだろう。
		(2)	69.0	76.4	
		(3)	63.1	72.8	
	問2	75.0	78.0		
	問3	55.1	63.4		
	問4	90.2	96.3		
	問5	58.2	66.0		
	問6	89.0	90.1		
	問7	66.7	75.9		
	問8	67.3	78.0		
問9	80.7	84.8			
【3】	問1	[X]	82.7	86.9	「食」をテーマにした出題であった。合格者正答率と全受験者正答率との差が大きかったのは、問2・問4・問8で、いずれも記述問題であった。問2はコロナ禍における飲食業界の影響が、業態によって異なることを統計データから読み取る問題であった。日頃から新聞やニュースに関心を持ち、時事的な問題について考えることを学習の一環として取り入れるようにしよう。問4は高速道路の建設に適する地区を各地区の概要やデータから検討し、説明できるかを問う出題であった。経済効果や工業製品の出荷の利便性からZ地区とする答案が最も多かった。Y地区とした、高齢者の生活に車が必要であるという、社会福祉の観点に立つての答案も多くみられた。いろいろな社会政策についてさまざまな立場から検討し考えることは、問題発見解決型学習や他者理解という協働学習にもつながる。求められる学力を意識した学習を心がけて欲しい。問8は月別のレタス入荷量と卸売り価格の推移から、供給量と市場価格に関連性があることに気付けるかが、解答のポイントであった。複数のグラフを比較し、相関性などの関連性を見つけ出すことを意識した学習を行おう。 問5は、三角グラフの読み取りにとまどった受験生が多かったようである。見慣れないグラフであったと思うが、グラフ中に日本を凡例とした読み取り方が記されているので、慌てずに落ち着いて読み取ることが必要である。また、第3次産業就業人口の割合と一人当たりGDPについては、中国とメキシコのGDPに差異があまりないことから判断できたのではないだろうか。問6の製品の解答では、単に「ロボット」とするなど、資料から目的に即した具体的な製品名として答えられていないものも多くみられた。問題文から、何を答えるのかを正確に読み取るようにしよう。
		[Y]	97.0	97.9	
	問2	記述	62.1	66.5	
	問3		88.1	91.1	
	問4	記述	74.8	80.1	
	問5		4.8	3.7	
	問6	記号	80.4	83.8	
		製品	23.1	26.4	
	問7		60.1	64.4	
	問8	記述	29.5	34.8	

社会 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	85.6	93.6	<p>2021年1月～6月までの時事問題と地理に関わる基本的な知識を問う出題であった。日頃から社会の出来事に興味・関心をもって学習する姿勢があり、地理の基本的な知識が定着していれば解答できる出題であった。</p> <p>全体的には正答率は高かった。その中で最も正答率が低かったのは問10で、TPPの内容に関する誤りを解答する四択の出題であった。正答率が低かった理由として考えられることは、4つの選択肢のすべてが誤っていない内容であったこと、また、時事的な知識や地理・公民的な知識がなければ解答が出来なかったことが推測される。その他に正答率が低かったのは問3で、福岡市の特徴について誤りを解答する4択の出題。この問題も当然、福岡市の特徴に関して、地理的な知識がなければ解答できない部分もあるが、4択のすべてが誤りでない内容であったので、その点も受験生の解答に影響したのではないかと思われる。やはり、合格した受験生はそのような点も踏まえて、時事的にも地理的にも総合的な知識があり、受験に対してしっかりした準備が出来ていたからこそ、的確な解答が出来たのだろう。</p>	
	問2	69.2	68.1		
	問3	33.6	42.6		
	問4	50.0	57.4		
	問5	57.5	68.1		
	問6	54.1	57.4		
	問7	87.7	93.6		
	問8	50.0	63.8		
	問9	74.0	91.5		
	問10	30.1	42.6		
	問11	54.1	74.5		
【2】	問1	81.5	91.5	<p>古代～近代までの政治・文化・対外関係を取り扱い、基本的な問題を中心に出題した。全体的に正答率は高かった。引き続き、歴史の学習で扱った、遺跡・地名・寺社仏閣などが出てきたら、必ず地図上での場所や写真等での確認作業を怠らないように心がけてもらいたい。</p> <p>正答率が低かった2問について。問6の正誤問題は、江戸時代の交通に関して、文中[X]の北前船で迷ったと思うが、これは北海道や東北などの物資を日本海を通り瀬戸内から大阪に入って積荷をおろす船のことであること。また、文中[Y]の五街道は一般庶民でも通行はできるという2点を確認してほしい。</p> <p>次に、問10の年代の並び替えや時代を判断する問題では、重要なことは個々の出来事を単語として覚えるのではなく、歴史の流れをきちんと掴むことが大切である。また、歴史用語や人名を何となく覚えるのではなく、いつの時代の出来事か、関連する人物は誰なのか、などを正確に覚えることが望ましい。</p>	
	問2	85.6	91.5		
	問3	88.4	100.0		
	問4	92.5	97.9		
	問5	74.7	80.9		
	問6	34.2	46.8		
	問7	84.9	89.4		
	問8	87.0	89.4		
	問9	85.6	93.6		
	問10	41.8	38.3		
【3】	問1	76.7	89.4	<p>国際交流と聞いて、受験生が想像する一つである「留学」を題材として出題した。</p> <p>問2は自然増減率から沖縄県を、留学生数から大阪府を判断し、そこから二択で考えてほしい問題であった。</p> <p>問3の[X]は年表から日宋貿易に平氏政権が主体的に関わっていたことを理解してほしい。また、リード文に留学僧が増えるのが12世紀後半と書かれていることから留学僧と日宋貿易の関係を推測してほしい。[Y]に関しては、年表から後白河法皇が仏教に強い関心を持っていること、宋に派遣された使者は後白河法皇と平清盛が関与していることを読み取ってほしい。</p> <p>問4は「国土の約1/4は海面よりも低い干拓地」であることから、高低差を利用した排水が困難であることを書いてほしかったが、その部分を読み落としている解答が多かった。</p> <p>問7は補助金を出すといった解答が多かった。公機関は実際に補助金を出しているが、それでも増えていないという事実がある。受験生には違った解答も考えてほしかった。</p> <p>問9は実際に現地に行かなくても海外の情報は以前に比べて容易に入手できるようになった。留学だけではなく、現地に実際に行く重要性を考えてほしいと思う。</p> <p>受験生全体と合格者との正答率の差が一番大きかったのが、問8で問題文をきちんと読んでいるか、それとも読み飛ばしているかの差が結果として表れている。資料やデータの読み取りも含めて、何が読み取れるのかをきちんと考えながら問題を解く癖をつけてほしい。</p>	
	問2	42.5	51.1		
	問3	40.4	48.9		
	問4	記述	57.1		66.0
	問5	69.9	80.9		
	問6	64.4	80.9		
	問7	記述	59.2		68.1
	問8	57.5	78.7		
	問9	記述	38.0		44.7